倫理　研究課題　＜西洋０1＞

教科書：ｐ　　～　　資料集：ｐ　　～　　ノート：ｐ　　～

●近代西洋の精神的土台

Ｍ・ウェーバー（20Ｃドイツの社会学者）：「西欧で近代文明が発達したのはなぜか？」

一応の答え：西ヨーロッパで「合理化」が進展したから。

＝「脱呪術化」：あらゆる事物から呪術的（魔術的）要素を取り除く

＝「被造物神格化の拒否」の精神の徹底：神のみを神とする

＝近代の科学精神（アニミズムの否定）、批判的精神（既存の権威の否定）

※一切の非理性的なものから解放されることで、本当の自由を獲得することができる。

●ルネサンス　（近代西洋を作った“３つのＲ”の１つ）

「文芸復興」。古代ギリシア・ローマの文化を復興させようという文化的運動。

カトリック教会が支配する「神中心」の文化から、「人間中心」の文化への変化。

古代ギリシア・ローマにこそ、人間の理想的生き方がある（人文主義＝ヒューマニズム）。

※イタリアの美術工芸分野における新しい潮流として始まった。（例）三美神の変化。

①レオナルド・ダ・ヴィンチのような「万能人」が理想。

②ピコ・デラ・ミランドラ

人間は自由意志をもつ（←中世：人間は自由意志をもたない＝神の恩寵のみで生きる）。

∴神のような存在になるか、獣のような存在になるかは自分で選択できる。

→「人間の尊厳」を主張。（→但し「悪しき自由至上主義」に陥る危険も）

③マキャベリ　　人文主義の考え方を政治の世界にあてはめて、現実主義の政治学を提唱。

『君主論』：祖国イタリアの共和制的統一を実現する理想の君主について論じた

＝ライオンの強さ（軍事力）と、キツネのずる賢さ（詭弁術）を兼備

＝奸策を用いてでも目的を達成する“したたかさ”を評価（権謀術数主義）

※Ｍ・ウェーバー『職業としての政治』：責任倫理と心情倫理

④トマス・モア：『ユートピア』で中世社会を批判（信仰の自由と私有財産制廃止を主張）

⑤エラスムス：『（痴）愚神礼賛』でカトリック教会を批判

★「適法・違法」と「善・悪」は同じか違うか？　違うとすればどういう場合一致しない？